

# 愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 18 年 44 週(11 月 1 週 10/30 ~ 11/5)

(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先: 052-910-5619 E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

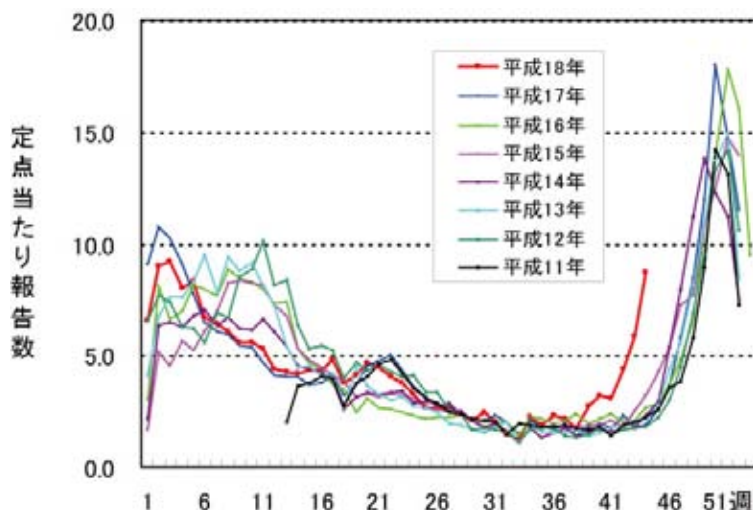
## 今週の内容

- ・ 注意する感染症
  - ・ 定点医療機関コメント
  - ・ 全数把握感染症発生状況
  - ・ 感染症だより (10 月後半)
- ・ WHO 疫学週報抄訳  
2006 年 10 月 27 日 (81 巻 43 号)  
インドでチクングニア熱流行、ケニアの難民キャンプでポリオ発生、象牙海岸で黄熱発生、鳥インフルエンザ:トルコの近況  
WHO 国際検疫病情報
  - 2006 年 11 月 03 日 (81 巻 44 号)  
ポリオ根絶:国際検査ネットワーク委員会勧告、サウジアラビア:旅行者・巡礼者の入国健康チェック、WHO 国際検疫病情報
  - ・ 五類定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

## 注意する感染症

### 感染性胃腸炎

44 週の定点あたり患者報告数は 8.70 人、前週比 1.5 倍(1,062 人 1,584 人)と増加傾向が続いています。定点医療機関からのコメントも増加してきました。本年は流行の立ち上がり早く、例年通りの増加傾向をたどると、例年より早く流行のピークを迎えると考えられます。今後の患者発生には十分ご注意ください。



本疾患は、定点あたり患者報告数が 20 以上で警報が出されます。平成 11 年以降、愛知県において警報は出されていませんが、流行のピーク時には定点あたり患者報告数が 15 前後報告されています。

参考ページ ; 「冬季に流行する胃腸カゼ、嘔吐症の集団発生 (ノロウイルス感染症)」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/nlv.html>

愛知県感染症情報センター

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>) をご覧下さい。

## 定点医療機関コメント（名古屋市除く）

### 尾張西部地区

病原性大腸菌O15 3歳女 1名  
便口ウイルス感染症 7名  
マイコプラズマ感染症 15名

【一宮市 城後小児科】

感染性胃腸炎が目立ってきました。

R S感染今期初めてありました。

熱が7日間続くEBVと思われる症例が多数みられます。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

A群溶連菌が目立ってきました。  
冬の胃腸かぜ（ノロ？ロタ？）がでてきました。

【犬山市 武内医院】

嘔吐を伴う感染性胃腸炎が多発しています。家庭内感染も多く認められています。

アデノウイルス感染症4名ありました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

76歳女 マイコプラズマ肺炎

嘔吐下痢を伴った胃腸かぜが流行して居ります。

【春日町 丹羽医院】

### 尾張東部地区

感染性胃腸炎多くなりました。

16歳男カンピロバクター腸炎。

溶連菌感染症みられます。

伝染性紅斑あり。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

今週もマイコプラズマ感染症が目立ちました。

嘔吐、下痢が少し増加。

その他、ヘルパンギーナ、手足口病、伝染性紅斑、水痘、流行性耳下腺炎等。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

O74 7歳女

【尾張旭市 旭労災病院】

胃腸かぜ多数続いています。

水痘・リンゴ病・手足口病・ムンプス少々。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

ウイルス性腸炎増えています。

【春日井市 春日井市民病院】

嘔吐下痢の例、増加中です。

【春日井市 竹内医院】

感染性胃腸炎流行中です。

【小牧市 小牧市民病院】

R Sウイルスによる気管支炎にて1名入院しました。

【小牧市 志水こどもクリニック】

伝染性紅斑と溶連菌が増えています。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

マイコプラズマ肺炎 8歳女、29歳女

【南知多町 医療法人大岩医院】

11歳男 マイコプラズマ肺炎

【美浜町 厚生連知多厚生病院】

胃腸炎がはやってきました。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

### 西三河地区

6歳女、8歳女、9歳女 StrepA (+)

18歳男 E.coli(O124)

3歳女 E.coli(O6)

1歳女 E.coli(O119)

10歳男女、0歳女 カンピロバクター

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

1歳女 カンピロバクター感染症

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

8歳男 カンピロバクター、病原性大腸菌O1(+ )VT(-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

5歳男 病原大腸菌O1、病原大腸菌O18

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

感染性胃腸炎が目立ちます。

【碧南市 永井小児クリニック】

嘔吐・下痢症が増加

マイコ感染症 9歳女 12歳女

【刈谷市 田和小児科医院】

9歳女 サルモネラO9

【刈谷市 まついこどもクリニック】

感染性胃腸炎が急増

手足口病がパラパラと

【知立市 宮谷クリニック】

マイコプラズマ肺炎 7歳女

感染性胃腸炎が多いです。

【三好町 三好町民病院】

0歳男 病原性大腸菌O1(VT-)

5歳男 病原性大腸菌O1(VT-)

【幸田町 とみた小児科】

### 東三河地区

感染性胃腸炎流行中

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

感染性胃腸炎増加（家族発症多し）

【蒲郡市 蒲郡市民病院】

## 一～三類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun060612.pdf>)

### 細菌性赤痢 (二類感染症)

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	知多	24	男	10/7	10/31	11/3	推定感染地域；インド

### 腸管出血性大腸菌感染症 (三類感染症)

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	O血清型、ベロ毒素型
1	豊橋市	2	女	10/15	10/26	10/30	O157、VT1・VT2 (+) <43週報掲載分・再掲>
2	瀬戸	28	男	-/-	10/31	10/31	O157、VT1・VT2 (+) <無症状病原体保有者>
3	瀬戸	27	女	-/-	10/31	10/31	O157、VT1・VT2 (+) <無症状病原体保有者>
4	瀬戸	6	男	10/20	10/21	10/31	O157、VT1・VT2 (+)
5	瀬戸	0	女	10/20	10/21	10/31	O157、VT1・VT2 (+)
6	豊橋市	30	女	-/-	11/1	11/4	O157、VT1・VT2 (+) <無症状病原体保有者>

## 四類・五類(全数把握)感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

A型肝炎 1例

・推定感染地域：国内 <43週報掲載分・再掲>

梅毒 1例

・早期顕症、推定感染地域：国内、推定感染経路：性的接触 <45週報告分>

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

この秋一番の冷込みというニュースを耳にしながら出勤。駅の階段の手すりを握ったとたんにその冷たさに驚いたりしています。いつも貴重な情報を有難うございます。10月後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内: 名鉄病院福田先生からはマイコプラズマ感染症の受診者がベースラインの2-3倍に増加、マイコプラズマ性の気管支炎・肺炎の入院が入院患者の過半数で、嘔気が主症状のウイルス性胃腸炎も増加傾向で、ウイルス性胃腸炎の入院もマイコプラズマに次いで多い、第二日赤岩佐先生からは咳・鼻汁の患児が目立ち肺炎の入院増加、ロタウイルスでないウイルス性胃腸炎(例年のノロウイルスか)の入院増加、千種区今枝先生からは伝染性紅斑の保育園児1人、マイコプラズマぼつぼつ、三菱病院入山先生からはA群溶連菌咽頭炎5名(入院1名)、感染性胃腸炎5名(カンピロバクター2名で1名入院、病原性大腸菌O25が1名、黄色ブドウ球菌1名、アデノウイルス腸炎で入院1名)、水痘1名、手足口病1名、気管支炎・肺炎(マイコプラズマを含む)12名入院と目立ち、中京病院柴田先生からは外来ではムンプス、水痘、嘔吐の患者が見られ、マイコプラズマ肺炎と仮性クループの入院が増加、とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区: 犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎がそれぞれ散発中でマイコプラズマ感染症が目立つ、江南市昭和病院小児科からはウイルス性胃腸炎が目立ち、マイコプラズマ肺炎とウイルス性胃腸炎の入院目立つ、常滑市民病院高橋先生からは季節はずれの手足口病が1例、発熱がないが咳がつづきX写真で肺炎所見ある例が数例、ブドウ球菌性火傷様皮膚症候群2例続き、マイコプラズマらしい肺炎が多く胃腸炎の入院やや増加、市立半田病院小児科からは10月25日頃より嘔吐腹痛を主訴とした感冒性胃腸炎が多くなり、この胃腸炎による入院例が増えた、とのお手紙でした。
- 3) 三河地区: トヨタ病院木戸先生からはムンプスが地域的には流行、10月は例年より暖かかったためか入院患者は少なく肺炎、喘息ぐらいだった、加茂病院梶田先生からは嘔吐を主とする感染性胃腸炎が多く、ムンプスと水痘がだらだらと流行、感染性胃腸炎の入院が増え10月30日今シーズン初めてのロタウイルス陽性下痢症あり、百日咳の疑い1名あり、刈谷市田和先生からはマイコプラズマ感染症ときどき、感染性胃腸炎と手足口病、ムンプスが半月で2~3例、岡崎市民病院後藤先生からは喘息性気管支炎、喉頭炎が増加、マイコプラズマ感染症も多く入院では喘鳴を伴う気道感染症が増加(RSは今のところ流行していない)、ロタ、アデノ陰性の胃腸炎も多い、碧南市永井先生からは下気道感染症が目立ち嘔吐を主訴とする胃腸炎も時々あり、豊橋市からは感染性胃腸炎、ウイルス性胃腸炎流行中で親子発生もめずらしくない(市内長屋先生、宮澤先生)とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2006 年 10 月 27 日（81 巻 43 号）<http://www.who.int/wer/2006/wer8143/en/index.html>

チクングニア(注: デング熱類縁の蚊によって媒介されるアルボウイルス感染症。発熱と風疹様発疹、特徴的なのは激しい筋肉痛。チクングニア = 現地語で死ぬほどの痛み。予後良好だがワクチンは未開発)。インド: WHO 東南アジア地域事務所から 06 年 2 月 ~ 10 月 10 日に南インドで発生の報告。流行地区はアンドマン・ニコバル諸島、アンドラプラデシュ、デリー、グジャラート、カルナカタ、ケララ、マディヤプラデシュ、マハラシュトラ、タミールナドゥ州。WHO インド事務所、保健省、ケララ州当局チームが調査実施。チームの勧告は昼も活動する媒介蚊対策が中心で、環境整備と住民教育・動員。情報は<http://www.who.int/whopes/en/>。

ポリオ。ケニア: 10 月 19 日ポリオ流行中のソマリア(05 年 7 月から 1 型野生株流行、216 例)からの難民キャンプで出生した 3 歳女児(本人はソマリア渡航歴なし)。ウイルス遺伝子解析ではナイジェリア由来株。政府と国際チームによる調査中。1 型単味ワクチンの定期外緊急接種を 11 月 3 日に発生地区の 25 万人小児を対象に実施予定。12 月には近隣諸国(ソマリア、エチオピア)も含め定期外接種の予定。

黄熱。象牙海岸: 06 年 10 月 5 日。30 歳男性と 16 歳女性。アビジャンとダカールのパスツール研で確定。死亡例なし。保健省は WHO の支援でウイルス・疫学・昆虫各専門家の学際チームを派遣して調査開始、同時にワクチン緊急接種のための国際的資金準備とワクチン確保を開始。

鳥インフルエンザ H5N1。トルコの近況。05 年 12 月 06 年 1 月: 06 年 1 月 3 日、首都アンカラの衛生センターが WHO に H5N1 人感染確認例 2 例を報告。激症の非定型肺炎で東部ユズンキュイル大学病院入院。この 2 例は同じ家族で鶏と接触あり(同地区では 12 月下旬から H5N1 確認死亡鶏発生中)、4 ~ 6 病日の鼻ぬぐい液は PCR 法陰性であったが 1 月 4 日にこの 2 例の下気道材料から RT - PCR 法で H5N1 陽性と WHO に報告。1 月 7 日、ロンドンの WHO 検査センターで確認。1 月 5 30 日、WHO は集団発生警告と対応国際ネットワーク(Global Outbreak Alert Response Network) 国連食料農業機構、ユニセフの合同チームを現地に派遣した。本報はその報告の概略である(一覧表とグラフあり)。

1) 疫学的な報告。 05 年 12 月 25 日 06 年 1 月 8 日に 10 例(死亡 4)が人 H5N1 感染と確定。発病から死亡までの平均日数は 8 日(分布 7 10 日)。全例 3 15 歳(平均 8.9 歳)。死亡例の年齢は平均 13.7 歳(分布 12 15 歳)。男女各 5 例(年齢分布、死亡例の分布は一覧表参照)。ドグマデジッド(D)地区で 3 家族の 7 例、2 家族の 2 例、アグリ(A)地区の 1 家族 1 例が H5N1 感染確定。確定患者と接触した 600 名以上の同地区居住者とユズンキュイル大学病院に入院した 135 例の疑い患者は全例 H5N1 ウイルス陰性であった。2) D、A 両地区の各家族の調査: 家族内感染が集積した 3 家族、単発した 3 家族について感染源、発病から死亡までの経過の詳細: 家族別に詳細な一覧表あり。略。

国際検疫病 WHO 公示。10 月 20 26 日。コレラ: モザンビーク、タンザニア、イタリア(輸入例)。



ポリオ根絶。WHO地球規模検査室網(Global Polio Laboratory Network、以下ネットワーク)の第12回非公式専門家会議。06年6月、ジュネーブWHO本部で開催。ポリオの現状:現在ポリオが風土病的に常在しているのはアフガニスタン、インド、ナイジェリア、パキスタンの4ヵ国であり、04-05年の輸入ポリオウイルスの伝播は西・中央アフリカ諸国とインドネシア、イエメンでは断絶され、エジプトとニジェールの土着ポリオウイルスは05年に伝播が断絶(ニジェールは隣接するナイジェリアからの輸入リスクあり)。地球規模の根絶には常在地域のポリオワクチン定期接種率向上、単味生ワクチンの普及の努力が国・地域単位で実施される必要がある。現在、全世界の145検査室で構成される当ネットワークが活躍中で05年1-6月には急性弛緩性麻痺(AFP)患者材料17万検体を検査、検査室によっては05年の検体数激増が重荷となっているがエジプト、インドのラクナウ(愛知県衛生研究所が支援)、ムンバイ、インドネシア、ナイジェリアなどの検査センターが作業量増加に対して最善を尽くしている。06年中期時点でウイルス学的解析の結果、1型野生株ウイルスでは2遺伝子型、3型野生株ウイルスで2遺伝子型が常在国で伝播中と判明。一方で、同ネットワークはウイルス蛋白VP1塩基配列検索によるワクチン由来ポリオウイルスの解析を継続中(注:AFP患者から分離されたウイルスの遺伝子レベルの検索結果は以前当抄訳で紹介した81巻42号398頁の記事と完全に重複するので略)。今回の専門家会議参加者から下記の勧告が発表された。1)WHOは加盟各国に継続的に支援をすべし。2)野生株、ワクチン由来株の検出と検索の結果報告をWHOとWHO地域事務所に検出後24時間以内に行うこと。3)ウイルス分離用の培養細胞の感受性をモニターする。4)06年10月、WHOは英国の国立研究所と協力してウイルス分離用培養細胞感受性調査をまとめて発表する。5)新しい培養細胞の供与、使用結果を06年9月30日に各国は報告すること。6)06年10月30日WHOのポリオウイルス実験マニュアルを発表。7)分離ウイルスの血清型同定と遺伝子解析、特にワクチン由来ポリオウイルスの検査室診断感度の改善に努めること。8)07年12月までに現行のポリオウイルス検査法を改良、履行する。9)その履行は現地の流行程度・検査状況に応じて設定、07年末までに常在地検査室の75%が実施していること。10)分離ウイルス検索結果が24時間以内に報告出来るようウイルス検出感度・特異度向上のための臨時小作業グループ召集の継続。ポリオウイルスの封じ込めについて当ネットワークはWHO欧州地域が封じ込め第1相作戦が完了したことを高く評価している(81巻34/35号)。11)ネットワークはこの封じ込め作戦が他の地域にも普及することを希望。12)ネットワーク検査室は生ポリオワクチン中止計画にそったポリオウイルス封じ込め作戦進捗に当り、a)06年9月中旬時点で野生株が伝播していれば野生株封じ込め行動計画第3版原案を再検討し06年10月11-12日予定のポリオ根絶助言委員会前にコメントを準備する。b)生物学的リスク対策案を検討。c)行動計画第3版のコンセンサス。d)加盟各国・各地域の行動計画第3版履行の支援。13)リスク管理:安全性がネットワーク機能の中心であり、ガイドライン作成と普及、器材供与が必要に応じて行なわれること。ネットワークが認定した計画にそっているか否かで安全性を評価すること。実験室マニュアルのバイオセーフティ部分の拡大、適切な訓練コースをネットワーク参加検査室で07年の次回のネットワーク会議までに認定する。

サウジアラビアへの旅行者・巡礼者の入国に必要な情報:サウジアラビア保健省はメッカ巡礼の季節に当り巡礼者を含む一般の入国者に下記を要求。黄熱病:a)流行地区は現在アフリカの32ヵ国と中南米の11ヵ国(国名略)。これらの国からの入国者はワクチン接種後6日以上経過していることを証

明する公的証明書(イエローカード)が必要。b)航空機などは国際保健規則に従った殺虫剤処理済みの証明が必要)。  
髄膜炎菌髄膜炎:a)全ての入国者について(2歳以上の小児と成人)、4価(ACYW135)ワクチンを1回、到着前10日-3年の期間に接種。証明が必要。b)髄膜炎ベルト(サハラ砂漠南縁のセネガルから東アフリカ諸国までの髄膜炎菌土着16ヵ国。国名略)からの入国者は健康保菌者の可能性あり、除菌のため入国時に成人はシプロフロキサシン、小児はリファンピシン、妊婦はセフトキシオンを1回内服。  
ポリオ:ポリオ流行国からの15歳以下小児の入国にビザ申請より6週以上前に生ワクチン接種終了の証明が必要。証明の有無にかかわらず、15歳以下の流行国からの入国者は国境の接種ポイントで生ワクチン接種。  
インフルエンザワクチン:高齢者や慢性の心疾患、肺疾患などハイリスク者に接種を勧めている。  
食物:旅行者、巡礼者の食物持ち込みは禁止。

国際検疫病WHO公示。10月27日-11月2日。コレラ:アンゴラ、リベリア。





